

「富富富」の一般栽培は、今年で4年目となり良食味安定生産の栽培技術が確立してきました。「富富富」は、近年の高温条件下でも高い品質を得られますが、収量を求め過ぎると、品質や食味、収量の低下につながります。

今年の作業を始める前に今一度栽培マニュアルを確認し、県を代表するブランド米としての「富富富」生産に取り組みましょう。



ずっと食べ続けたい、
全国の消費者から愛され、選ばれるお米へ



1 育苗管理

- 育苗期間が高温傾向のため、積極的に換気を行い、がっしりとした苗に仕上げましょう。

2 適切な田植作業の実施

流通基準違反は、県全体の信用失墜につながります。必ず守りましょう。

<流通基準>
・検査等級：1等
・化学合成農薬の成分使用回数：12以内

<品質目標>
・玄米水分 … 14.5~15.0%
・玄米蛋白含有率(水分15%換算値) … 6.4%以下

- 田植時期が早いほど乳白・心白粒が発生し、品質・食味総合値が低下する傾向にあります。品質・食味の高位安定化のため、田植は5月15日を中心(5月6~20日)に実施しましょう。
- 乾燥調製作業をJAに委託する場合は、5月18~20日頃の田植としてください。
- 苗箱施薬剤の使用にあたっては登録内容を遵守するとともに、成分数を必ず確認しましょう。
- 苗を購入している場合は、種子消毒剤と苗箱施薬剤の有無を必ず確認しましょう。
- 栽植株数70株/坪以上、植付本数3~4本/株、植付深さ3cm程度となるよう田植機を調整しましょう。

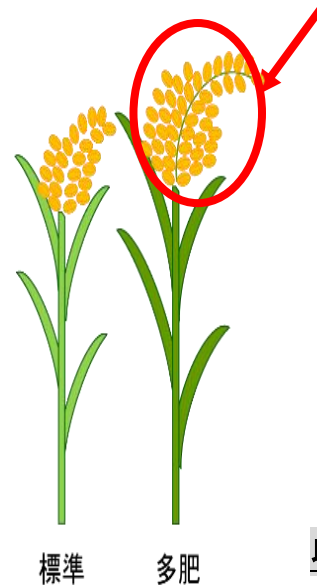
3 適正な施肥

- 富富富は、コシヒカリに比べて生育量が小さいため、施肥窒素量が低減できます。
- 施肥窒素量は、収量レベル540kg/10aのコシヒカリの2割減を基本とし、過剰とならないようにしましょう。
- また、R2産で玄米蛋白含有率が6.5%以上の方は、必ず減肥しましょう。

表1 施肥基準

土壌区分	基肥一発体系		分施肥体系	
	肥料名	施肥量	肥料名	施肥量
砂壤土	富富富専用 全量基肥肥料	30kg/10a	基肥 206	27kg/10a
壤土 黒ボク		25kg/10a		21kg/10a
粘質土		22kg/10a		19kg/10a

△施肥窒素量が多いと → 過剰粒となり、



- 登熟のバラツキが大きくなる
- くず米が多く、収量は増加しない
- 乳白、心白粒、青未熟粒が増える
- 玄米蛋白含有率が高くなる

↓
収量・品質、食味が低下

4 田植後の水管理

- 田植後3日間程度はやや深水で活着を促進し、活着後は浅水管理により、分げつの発生を促進しましょう。
- 無効分げつの抑制、根圏の発達促進、適正な葉色への誘導のため、田植後4週間までに中干しを開始しましょう。

5 雑草防除

- 除草剤の使用にあたっては登録内容を遵守するとともに、必ず成分数を確認しましょう。
- 除草剤の効果を上げるため、散布後5日間は5cm程度の水深を保ち散布後7日間は落水しないでください。

表2 雑草防除体系例(初期剤+一発処理剤体系の場合)

区分	薬剤名	使用時期	使用量	対象雑草	成分数
初期剤	漏生粒対策に有効 マーシエット1キロ粒剤	移植後3~5日 まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	1
一発処理剤	エンペラー1キロ粒剤 (エンペラージャンボ)	初期剤散布 7~10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ、 ウリカワ等	3

※上記以外の除草剤を使用する場合は、各営農経済センターにご相談ください。

【まとめ】

- 田植は5月15日(5月6~20日)を中心に実施する。
- 穂数400本/m²を確保し1穂粒数を過剰にしないため、栽植株数は70株/坪以上を基本とする。
- 適正粒数に誘導するとともに、玄米蛋白含有率を目標値6.4%以下に抑えるため、基肥施用量は「コシヒカリ」の2割減を原則として地力に合わせて増減させる。
- 初期分げつを確保するため、活着後の浅水管理を徹底する。